

■ 概況

9/23～9/29のNYMEX・WTI先物市場は、73.30～75.45ドルの範囲で推移した。

9月30日は、前日の米国原油在庫の増加報告の影響で朝方売りが先行したが、中国首相が国営企業に対し必要な原油の輸入確保を指示したとの報道で、中国の石油需要の伸びの期待感から、買いに転じ、3営業日ぶりに反発した。11月限の終値は前日比0.20ドル高の75.03ドル。

週末1日は、4日からのOPECプラスの閣僚協議を前に、一部参加国の増産遅延、旺盛な石油需要の見通しなど最近の需給ひっ迫感を背景として、続伸した。なお、米国内の稼働中の石油掘削装置は前週末比7基増の428基。11月限の終値は前日比0.85ドル高の75.88ドル。

週明け4日は、有力産油国による大幅増産見送り決定を受けて買いが加速し、続伸した。11月限の終値は、前週末比1.74ドル高の77.62ドル。

「OPECプラス」はこの日テレビ会議で閣僚級会合を開き、毎月日量40万バレルずつ増産する従来の方針維持を決めた。世界的な景気回復の進展とエネルギー需給の引き締まりが鮮明になる中、一部の産油国が増産拡大を検討しているとの事前の報道もあり、朝方の相場は75ドル台で小動き。方針維持が伝わると原油買いが殺到し、一時78.38ドルまで上昇した。

5日は、有力産油国による大幅増産見送り決定を受けた買いにより続伸した。11月限の終値は前日比1.31ドル高の78.93ドル。一時は、79.48ドルと、約7年ぶりの高値を付けた。

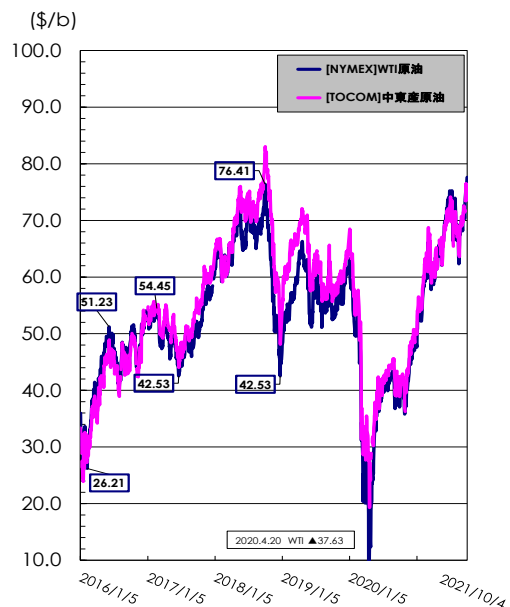
6日は、最近の供給逼迫（ひっばく）懸念の強まりを受けた騰勢が一服し、5営業日ぶりに反落し、11月限の終値は前日比1.50ドル安の77.43ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（11月渡し）は、9月23日～29日の間、74.80～77.70ドルの範囲で推移した。9月30日76.00ドル、10月1日75.80ドル、4日76.40ドル、5日79.00ドル、6日80.70ドルで推移した。

為替は9月23日～29日の間110.41～111.65円の範囲で推移した。9月30日111.92円、10月1日111.43円、4日110.99円、5日110.91円、6日111.63円で推移した。

そのような中で、10月4日時点の小売価格は、ガソリンが前週（9月27日）比1.3円の値上がり、軽油は同1.2円の値上がり、灯油は同18円の値上がり（18%ベース）だった。ガソリンは5週連続の値上がり、軽油も5週連続の値上がり、灯油も5週連続の値上がりだった。この週（10月第1週）の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比2.0円の値上げとなった模様。

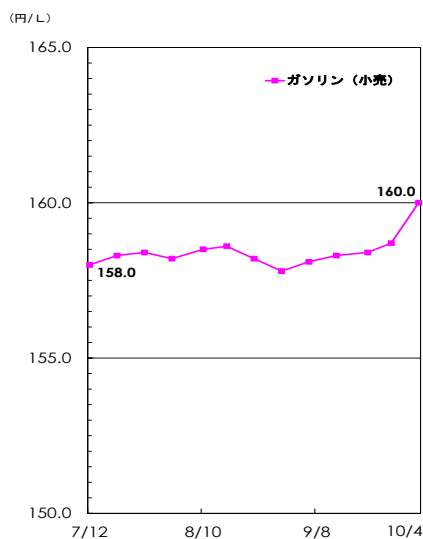
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/26 ~ 10/2	2,726 ▼ -70	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	70.8 ▼ -1.9	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	10/2	9,354 ▲ 238	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	10/4	75.57 ▲ 0.68	▲ 35.7
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	10/4	77.62 ▲ 2.17	▲ 38.4
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月上旬	73.94 ▲ 0.63	▲ 27.69
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	51,059 ▲ 269	▲ 20,234
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.79 ▲ 0.35	▼ -3.84
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/4	111.99 ▼ -0.24	▼ -5.40



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/26 ~ 10/2	840 ▼ -31	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	786 ▼ -24	▼ -	
	輸出	"	141 ▲ 82	▲ -	
	在庫	10/2	1,605 ▼ -87	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/28 ~ 10/4	69.5 ▲ 1.6	▲ 26.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/28 ~ 10/4	69.4 ▲ 3.4	▲ 30.5
		(TOCOM/中部)	10/4	70.0 ▲ 3.0	▲ 30.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/4	160.0 ▲ 1.3	▲ 25.4	

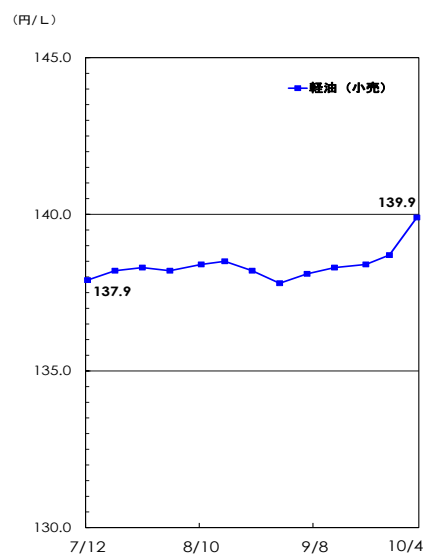
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

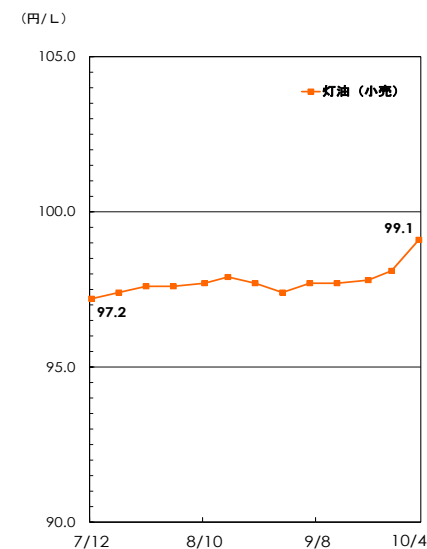
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/26 ~ 10/2	740 ▲ 78	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	598 ▲ 99	▼ -	
	輸出	"	150 ▲ 3	▲ -	
	在庫	10/2	1,540 ▼ -7	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/28 ~ 10/4	71.2 ▲ 2.2	▲ 25.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/28 ~ 10/4	71.8 ▲ 1.7	▲ 24.9
		(TOCOM/中部)	10/4	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/4	139.9 ▲ 1.2	▲ 24.7	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/26 ~ 10/2	207 ▼ -4	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	153 ▲ 50	▲ -	
	輸出	"	0 → 0	▼ -	
	在庫	10/2	2,539 ▲ 53	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/28 ~ 10/4	70.4 ▲ 1.9	▲ 24.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/28 ~ 10/4	68.0 ▲ 2.1	▲ 26.0
		(TOCOM/中部)	10/4	68.5 ▲ 2.0	▲ 26.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/4	99.1 ▲ 1.0	▲ 18.4	



■ 関連情報

1 海外/原油

10月6日のNYMEXのWTI先物原油は、5営業日ぶりに反落した。米エネルギー情報局(EIA)が6日に発表した週間の石油在庫統計で、市場が横ばいを見込んでいた原油在庫が前週比235万バレル増加、ガソリン在庫は小幅な減少を見込んだ市場予想に反して増加した。米国内の原油生産も増えたことから、夏場にハリケーンの被害を受けた石油生産施設の再稼働が進んでいるとの見方が強まり、需給が引き締まるとの観測が後退した。

11月限の終値は前日比1.50ドル安の77.43ドル、12月限の終値は1.51ドル安の77.06ドル。

EIAによると、10月4日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.5セント値上がりの1ガロン3.190ドル(94.3円/ℓ)、ディーゼルは同7.1セント値上がりの3.477ドル(102.7円/ℓ)となった。ガソリンは2週ぶりの値上がり、ディーゼルは3週連続の値上がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年9月26日～10月2日に休止したトッパー能力は32.3万バレル/日で、前週に対して0.8万バレル/日増加した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は272.6万klと、前週に比べ7.0万kl減少。前年に対しては14.4万klの増加。トッパー稼働率は70.8%と前週に対して1.9ポイントの減少、前年に対しては4.9ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、軽油が増産、その他の油種で減産となった。

ガソリン/3.5%減、ジェット/25.7%増、灯油/1.8%減、軽油/11.8%増、A重油/12.5%減、C重油/5.2%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.5万kl減)。軽油の輸出は15.0万kl(前週比0.3万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でジェット、灯油、軽油が増加し、その他の油種で減少した。

前年比では灯油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンの出荷は78.6万kl(対前週3.0%減)と3週振りに減少した。

ジェット6.5万kl(対前週98.0%増)、灯油15.3万kl(対前週

49.7%増)、軽油59.8万kl(対前週19.7%増)、A重油13.9万kl(対前週28.5%減)、C重油6.1万kl(対前週49.3%減)。

(単位:千kl)

	今週 (9/26 ~ 10/2)	前週 (9/19 ~ 9/25)	前週比
ガソリン	786	810	▼ -24 (-3%)
ジェット燃料	65	33	▲ 32 (97%)
灯油	153	103	▲ 50 (49%)
軽油	598	499	▲ 99 (20%)
A重油	139	194	▼ -55 (-28%)
C重油	61	121	▼ -60 (-50%)
合計	1,802	1,760	▲ 42 (2%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月2日時点の在庫は、ジェット、灯油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

前年に対してはジェット、軽油、C重油が増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンは160.5万kl、前週差8.7万kl減。前年に対しては23.0万kl少ない。

灯油は253.9万kl、前週差5.3万kl増。前年に対しては43.2万kl少ない。

軽油は154.0万kl、前週差0.7万kl減。前年に対しては3.9万kl多い。

A重油は72.3万kl、前週差1.9万kl減。前年に対しては0.4万kl少ない。

C重油は195.1万kl、前週差5.5万kl減。前年に対しては14.8万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (10/2)	前週 (9/25)	前週比
ガソリン	1,605	1,692	▼ -87 (-5%)
ジェット燃料	859	842	▲ 17 (2%)
灯油	2,539	2,486	▲ 53 (2%)
軽油	1,540	1,547	▼ -7 (-0%)
A重油	723	742	▼ -19 (-3%)
C重油	1,951	2,006	▼ -55 (-3%)
合計	9,217	9,315	▼ -98 (-1.1%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月28日～10月4日の指標原油価格は前週(9月21日～9月27日)比で値上がりし、為替レートは円安で、円建ての原油コストは値上がりしたものと見られる。

次週(10/7～13)の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比2.0円の引き上げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

9月28日～10月4日の製品スポット市況は、9月21日～9月27日平均と比べ、全油種・全取引で値上がりした。

直近週(9/28～10/4)の陸上スポット価格平均値は、前週(9/21～9/27)比で、ガソリンは1.6円の値上がり、灯油は1.9円の値上がり、軽油は2.2円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(9/28～10/4)に、前週(9/21～9/27)比で、ガソリンは1.6円の値上がり、灯油は3.9円の値上がり、軽油は2.0円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは3.4円の値上がり、灯油は2.1円の値上がり、軽油は1.7円の値上がりだった。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (9/28～10/4)	前週 (9/21～9/27)	前週比
スポット価格	レギュラー	69.5	67.9	▲ 1.6
	灯油	70.4	68.5	▲ 1.9
	軽油	71.2	69.0	▲ 2.2

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値][平均]		今週 (9/28～10/4)	前週 (9/21～9/27)	前週比
先物価格	レギュラー	69.4	66.0	▲ 3.4
	灯油	68.0	65.9	▲ 2.1
	軽油	71.8	70.1	▲ 1.7

※上記価格は税抜き価格

参考値 (9/28～10/4実績値)		(単位: 円/%)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▲ 1.6	▲ 3.4	▲ 2.5	
灯油	▲ 1.9	▲ 2.1	▲ 2.0	
軽油	▲ 2.2	▲ 1.7	▲ 1.9	
A重油	▲ 1.6			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

10月4日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(9月27日)比1.3円高の160.0円、軽油は同1.2円高の139.9円、灯油は18 $\frac{1}{2}$ ペースで同18円高の1,783円(1 $\frac{1}{2}$ ペースでは同1.0円高の99.1円)。ガソリンは5週連続の値上がり、軽油も5週連続の値上がり、灯油も5週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは43都道府県、横ばいは2県、値下がりは2県だった。全国最安値は153.7円の宮城県(同0.9円高)、その次は、154.7円の埼玉(同1.6円高)、他方、最高値は169.5円の長崎県(同0.7円高)だった。最も値上がりしたのは同3.7円高の高知県(165.9

円)で、横ばいは愛知県と愛媛県の2県、最も値下がりしたのは同0.4円安の鳥取県(158.0円)だった。

今週(9月28日～10月4日)は、指標原油価格は値上がりし、為替レートは円安で、円建ての原油コストは値上がりしたものと見られる。次週(10月7日～13日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比2.0円の引き上げとなった模様。次回調査時(10月11日)のガソリンの小売価格は、値上がりが見込まれる。

(資工庁公表)		(単位: 円/%)			
[週動向]		今週 (10/4)	前週 (9/27)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	160.0	158.7	▲ 1.3	08/8/4 185.1
	灯油	99.1	98.1	▲ 1.0	08/8/11 132.1
	軽油	139.9	138.7	▲ 1.2	08/8/4 167.4

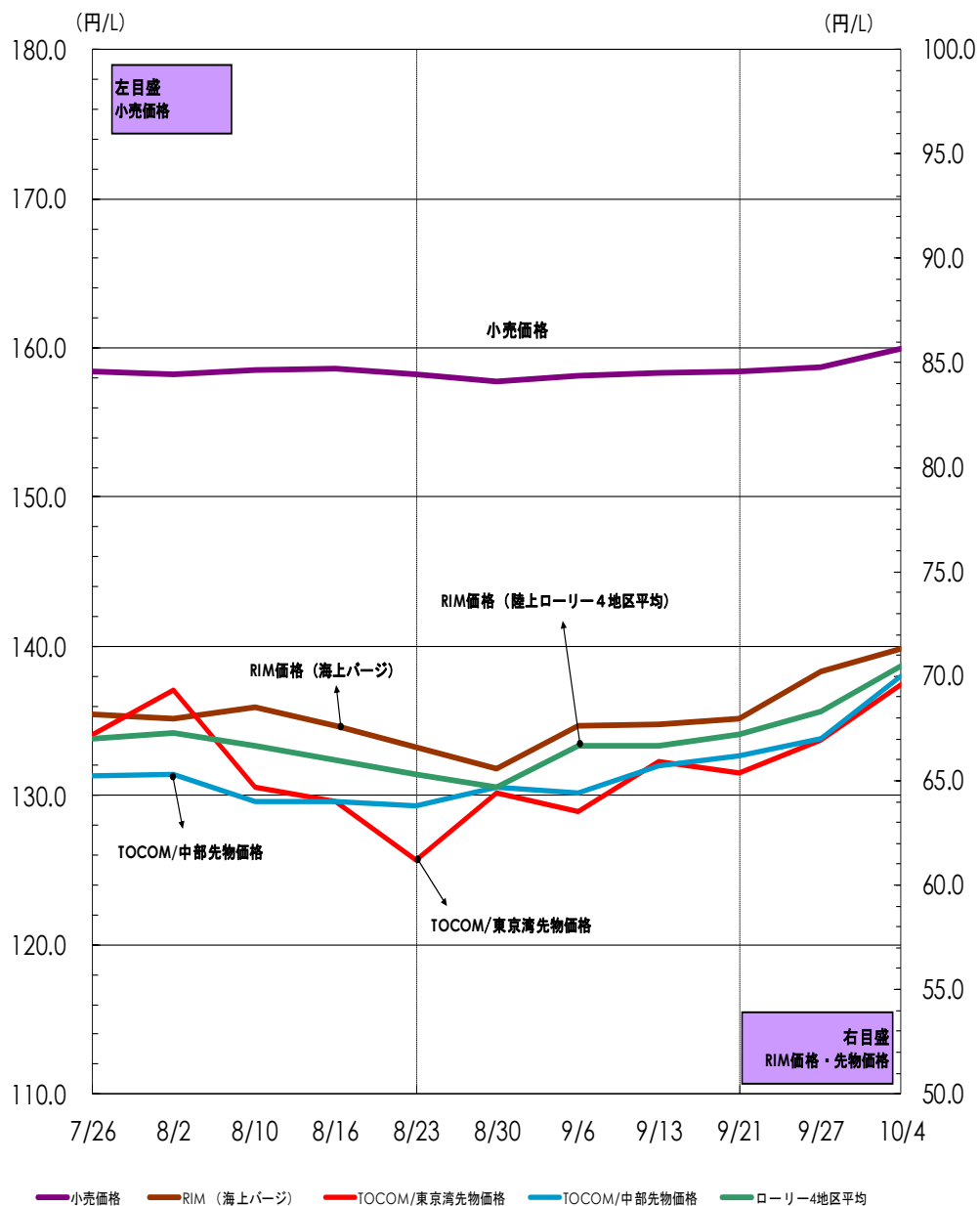
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2021/7/26 ~ 2021/10/4)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2021第27号) の公表は、10/15 (金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(令和3年3月末現在) は、8月25日 (水) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層 (特に給油所経営に携わる方々) から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所 (The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限 (翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社 (RIM) 「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用 (いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格 (平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格 (平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。